

平成22年度

第48回東海北陸地方放送教育研究大会

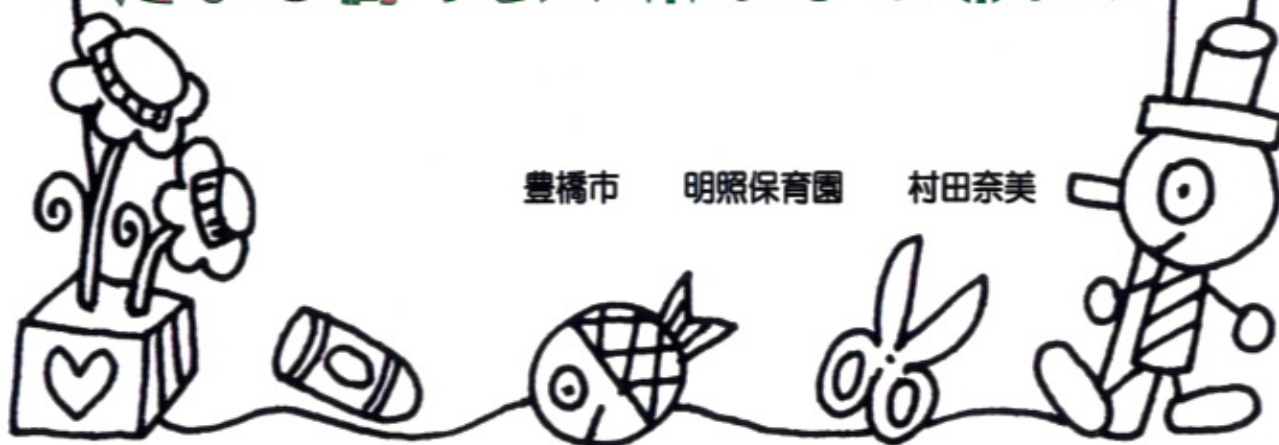
第42回愛知県放送教育特別研究会

「感じる心を育てる部会」提案資料

# テーマ

## イメージを膨らませて、 遊びを創り出す楽しさを味わう

豊橋市 明照保育園 村田奈美



## 【はじめに】

日々の保育生活の中で、ひとりひとりの子どもが友達と関わりながら、気づき、考え、行動できるような育ちを支えられるよう、保育者として、援助のあり方を工夫している。

今回の研究で、子どもが身の回りの様々な刺激の中で感動や不思議さを味わい（**気づき**）、遊びのイメージをふくらませ（**考え**）、一人ひとりが自分なりの遊びを作り出し友だちと発展させていく（**行動する**）ために、次のようなねらいを設定し、研究をすすめていく。

### 《ねらい》

- ・友だちと一緒にイメージを膨らませ、表現する楽しさを廃材あそびを通して味わう。
- ・身の回りの環境に感性豊かに関わり、遊びを創り出す力を育むための環境構成や援助のあり方を探る。

## 【対象】

4歳児 29名（男児 15名/女児 14名）

## 【廃材遊びについての考察】

### ★特性について

- ・廃材は子どもの身近にあって親しみやすい物で、さまざまに形を変える面白さがある。
- ・自分の発想やイメージと重ね合わせ、自分なりの表現ができる。
- ・多種多様な廃材を組み合わせてつなげたり、切り貼りすることで、指先を使ったり道具を使ったりする経験を自分なりに工夫して行う。
- ・廃材をさまざまなものに見立てて作ったり遊んだりして、友達とごっこ遊びが楽しめる。
- ・廃材は家庭にもあるため、家庭から廃材を集めたり、園での活動の様子や作品を家庭に紹介することで、家庭でも取り組めたりして、保護者も関心が持てる。

### ★環境についての配慮事項

- ・さまざまな廃材を家庭から集め、保育室内に設置するとともに、異年齢で共同で利用できるコーナーを園内に設ける。それによって、異年齢からの刺激や関わりが持てるようにする。
- ・いろいろな廃材を見つけやすく、使いやすく、かつ片付けやすい配置を工夫する。
- ・季節や、子どもの興味の移り変わりに応じて種類や量などを変える。



### ★遊びの様子から見られる課題

・友達と一緒に作って楽しむ姿が見られるが、作品を作ること満足し、それを遊びに発展させていく様子はまだ見られない。作る楽しさとともに、イメージをふくらませて遊べる楽しさが味わえる援助の必要性を感じた。

・廃材での遊びが十分楽しめていないのではないかと感じられる様子がしばしば見られる。

推測される要因としては、

- ① 活動経験が少ないことで自信が持てない
- ② 作るものやあそびへのイメージが膨らまない
- ③ 作りたいもののイメージはあっても、どう表現していいのかわからなかったり、はさみなどの道具がうまく使えなかったりすることで、意欲が持てなくなる等があげられる。

※以上のことから、イメージがふくらむ遊びづくりのきっかけのひとつとして視聴活動を取り入れてみて、考察する。

### 【事前に番組を保育者同士で見て、子どもと同じように

視聴から受けた思いを交わし合う体験をする】

7月 6日(火)

#### ★番組「つくってあそぼ・ペットボトルで」を視聴して

- ・作ったもので遊ぶことで、より一層作ることへの楽しみが持てる。
- ・ペットボトル遊びのアイデアが広がった。
- ・発想がすばらしく、せいさく意欲を湧かす魅力的な番組
- ・簡単なくみの作品からゴムを使っの科学的なものまで、段階をふまえての進め方がよい。
- ・作る楽しさだけでなく、ワクワクさんとゴロリのやりとりがおもしろく、「やってみたい」と思える。
- ・友達に合わせた環境構成や援助を工夫することにより、ひとりひとりに達成感が味わえる。

★保育者同士で視聴し、視聴中や視聴後に自分の思いを言葉に出したり、他の保育者の感想や意見を聞き入れることで、同じ思いの共有や違う思いの分有など、子どもと同じような体験を味わうことができた。肩寄せ合って視聴し、驚いたり笑いあったり、つぶやきあったりすることでの一体感を味わい、それにより共通のイメージが膨らむ楽しい場となることを実感した。子ども同士の視聴でも、子どもが自分の思いを素直に表し、それを聞き合うことでのイメージの育ち合いの場面を大切にする援助や言葉かけの必要性を感じた。



【実践1】 つくってあそぼ「ペットボトルで」を視聴し、

ふくらんだイメージで友だちと遊ぶ。 7月21日(水)

★視聴中の様子

	子どもの様子	保育者の関わり
視聴前	「見たことある!」「2回も3回もあるよ」と友達と口々に言う様子。 期待しながら一緒に「スイッチオン!」	「この前ペットボトルで楽器作ったり、泥んこあそびでお水入れてあそんだりしたよね。今日はペットボトルを使ったつくってあそぼのワクワクさんのテレビを見たいと思います。」 「見てみて、また楽しいこといっぱいあるから、後でみんなで作ってみようか」 「じゃあ、みんなでスイッチオン」
場面	子どもの様子	保育者の思い
オープニング	・「これしっとる」 ・「これおもしろいよね」(MちゃんがYくん) → ・「あ〜これテレビでみたことある〜」(Nちゃん) ・「つくってあそぼだよ」(SくんがMくん) → ・共感し合う。(Rちゃん、Mちゃん) ・「すげ〜」「すげ〜」	・普段あまり積極的に話をしようとするMちゃんとYくんが話をしているのだが、たまたま隣にいたからか楽しそうに話をしている。 ・仲良しのRちゃんとMちゃんは隣同士で見てる。
けん玉 わくわくさん ゴロリ失敗	・見入る。 ・先生の笑いに反応して顔見て笑う。(Rくん、Sくん、Mくん、Yくん) ・「おもしろいね」先生に笑いかける。 ・見入っている。	・すごく見入ってる。 ・失敗したのが面白かったようだ。
ゴロリ入る	・「もう一回入る」(Kちゃん) ・嬉しそうに「うまい!うまい!」と真似る。(Sくん、Rくん) ・顔を見合わせて笑顔になる。(Hくん、Mちゃん) → ・笑顔になる。(Aちゃん) ・見入る。(多数)	・HくんとMちゃんは、思いの通じ合いができているんだな。
ペットボトル切る	・「切れるのー?」(Aくん) → ・「大人に切ってもらってーそれから自分でハサミで切る」 → ・「そいでーそれを入れる」(Nちゃん) → ・「何でテープ?」(Sくん)	・ペットボトルを切ることが意外だったようだ。 ・しっかり聞いている。
完成	・ヒソヒソ話をしている。(Hくん、Mちゃん) ・「えーペットボトル…すげーカップ2つ?!」(Aくん) ・「カップ2つ?!」(Yくん)	・確かに片方は結んで、片方はなんでテープなんだ?って思ったのだろう。
ダブルけん玉	・Mちゃんの顔を覗き込み「ね〜!」(Rちゃん) → ・「これ、うちの剣玉みたいだよ」(Mくん) → ・「1回できた」(Nちゃん)	・共感し合うことで繋がり合おうとしている。 ・普段大人しいMくんが自分の思いを表している。
けん玉やっている 上下上	・手で真似てやりあう。(Sくん、Rくん) → ・保育者に「あんなんさあ砂時計みたいだよ」と話しかける。(Rくん) ・話したり見ているじゃれあう。(Yくん、Mちゃん) ・「うーんって回してやる?」 ジェスチャーで手を回して表現をする。(Sくん、Rくん) → ・「お魚釣るだって」(Yくん) ・「えー」(Yくん)	・わくわくさん達と一体化して楽しんでる。 ・Rくんには砂時計に見えたんだ!発想が面白い!
魚 「一緒に作って みましょう」	・隣同士で顔を見合わせたりして気持ちが高ぶる中見入っている子もいる。 ・感心した様子で「あー」と言う。(Yくん)	・Yくんはお父さんと釣りに行った経験と結びつけて見ている。 ・自分たちも作ってみたいと期待している。 ・感動を共感している。

場面	子どもの様子	保育者の思い
つくっているとこ 「完成です」 斜めにする 釣れた 釣り会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見入る。</li> <li>・「すごいねー」(Sくん)の声に見入りながら「うん」と答える。(Rくん)</li> <li>・「えー魚釣りだ」(Yくん)</li> <li>・テンションが高くなる。(多数)</li> <li>・楽しそうに雰囲気を楽しんでいる。(Kくん)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感動を共感している。</li> <li>・場面がかわりどうなるのかとワクワクしている。</li> <li>・ドキドキしながら見入っている。</li> </ul>
わくわくさんが釣った魚が落ちた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「手を叩いて笑う」(Aちゃん)</li> <li>・「すげー」(Aくん)</li> <li>・「わくわくさん、全部落とす」(Yくん)</li> <li>・「ゴロリくんうまいね。あっ釣れた、すげー」(Aくん)</li> <li>・笑いあう。</li> <li>・手を叩いて笑い「すげー」(Aくん)</li> <li>・「わくわくさん、全部落とす」(Yくん)</li> <li>・「ゴロリくんうまいね。あっ釣れた、すげー」(Aくん)</li> <li>・手を叩いて笑う。(Rくん)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2人の様子をひとつひとつ声に出して楽しんでいる。</li> </ul>
エコエンジン 回る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なに?!」と体乗り出して興味津々の様子。(Yくん)</li> <li>・「ヘリコプターみたい」(Aくん)</li> <li>・「ん?!」(Yくん)</li> <li>・「すげー」(Aくん)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今度は何だろうと興味を引きつけられてる。</li> </ul>
置く 作り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「難しいだー」(Yくん)</li> <li>・見入る。(多数)</li> <li>・「すげー」(Aくん)</li> <li>・「わー」「えー30回も回す?!」(Yくん)</li> <li>・見入る。(多数)</li> <li>・「何それー?飛行機みたい」(Rくん)</li> <li>・「わーきれー」(多数)</li> <li>・「分かりました。分かりましたー」とゴロリのことばを真似る。(Rくん)</li> <li>・Sくんに「入らんかったね」と話しかける。(Mくん)</li> <li>・「入らんかったじゃん」と言いながら手でXを作って表現する。(Sくん)</li> <li>・それを見て真似して手でXを作り「ブー」と言う。</li> <li>・「難しいだー」(Yくん)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が作ることに置きかえて考えることができている。</li> <li>・素直に自分の気持ちを表している。</li> <li>・真似することを楽しんでいる。</li> </ul>
花火 回る 貯金箱に1円玉を入れる 入らずに「ブー」の音	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「うおー」と手を叩いて嬉しそう(Sくん)</li> <li>・「こうやってパンってやってスルンって落ちるもん」(Rくん)</li> <li>・ワテンボ遅れて「ブー」と言っているRくん達を見ている(Sくん)</li> <li>・Sくんの真似をする(Aくん)</li> <li>・「ブルンブルンだって」(Rくん)</li> <li>・笑い合う(多数)</li> <li>・「宇宙人たちだ!」(Mちゃん)</li> <li>・「難しいこれ。わあー」(Yくん)</li> <li>・思いを口々に言い合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画面の真似を友だちと一緒に楽しんだり成り行きをことばで確認し合うことで画面とも友だちとも一体感を味わっている。</li> <li>・楽しそうなのを真似したくなったのだろう。</li> </ul>
宇宙ステーション ゴロリが成功する エンディング		



### ★視聴後のイメージ交流の様子

- ・保育者がテレビの前に立つと、「おもしろかった〜」「失敗してたやつ」「誰が?」「ゴロリ〜」と次々と思いが膨らんで思ったことを保育者や友だちに伝えていた。
  - ・保育者がペットボトルを切って見せると、じっと見入り、「すご〜い」と心を揺らしていた。自分でペットボトルのような硬いものをはさみで切れるだろうか、難しそうだなと話ず姿も見られていた。
  - ・わくわくさんが作っていたけん玉を実際保育者が目の前で作ってみると、その時の映像を思い出し、「糸!!」「テープで貼っとった。」などと、見たばかりのものが飛び出してきたかのように思いが溢れ出ていたようだった。
  - ・作ったけん玉でわくわくさんのように遊んでみると、もっと上手に入るようにするには、どうしたらいいのか、自分達で考えて伝え合ったり、「いっぱい練習すると出来るようになるよ」と、子ども達が日頃の生活の中で感じていることを表現し合っていた。
  - ・輪ゴムの原理についても触れ、「ねじっとるもんで回るだよ」など、自然と科学的なことにも興味を持っているようだった。
  - ・それぞれが見たままの、感じたままの素直な思いを、保育者にまっすぐに表現してくれたことで友だち同士刺激し合い、作りたい意欲や表現したい心を揺らし合っていた。
- また、自分の思いはあるようだが、まだことばにして表せない子も見られる中で、友だちのことばや様子に耳を傾け共感しているようだった。

### ★イメージ交流をした後のあそびの様子

- ・視聴の刺激から全員がペットボトルを手に取り、作りたい意欲を友だちと膨らませながら、廃材コーナーで色々な大きさや形の中から自分で作りたいものを想像して選んでいた。必要なゴムや割り箸を嬉しそうに「3コ欲しい。」「糸、ちょっと長い方がいい。」など、番組で得た刺激を試したい意欲が強く、具体的な遊びのめあてが感じられた。
- ・見ている最中に、すでに作りたいものを決めている子が多く、「けん玉つくりたい」と言って、黙々と作り上げ、糸を縛るところは保育者に「やって」と伝え、早々に完成し、けん玉の練習を糸の長さを工夫して、できるまで一生懸命やっている子もいた。
- ・ペットボトルにシールを貼ることが楽しくなって、1つ1つ色や向きを揃えたりして飾り付けている姿が見られ、作る活動が多様になっていた。



- ・ペットボトルそのもので遊ぶことが楽しくなり、友だち同士でコマや楽器にして盛り上がる姿が見られたが、その後自分の思いのものをそれぞれつくり進めていっていた。
- ・わくわくさんが作っていたけん玉やエコエンジンなどを模倣して作る子やそれを使って想像力を膨らませ、そこからアレンジしたものを作り出して遊ぶ姿も見られていた。

## 【実践2】 その後の普段の廃材あそびの様子

7月28日(水)

- ・視聴後ペットボトルを使ってじっくりと取り組んだことで、今回は前回のよう番組のまねをしようとする子ばかりではなく、自分の思いのままにロボットやパソコンなど、好きなものをつくり上げ、作り方や遊び方に幅が感じられた。
- ・廃材そのものの形で遊ぶ姿から、ハサミなどで切り離したり、切り込みを入れたりして形を変化させて使う姿が多くなっていた。
- ・ペットボトルなどにペンで描いたり、画用紙を切って貼ったり、ビニールテープで飾り付ける姿が見られていた。
- ・中には周囲の子の勢いに合わせて廃材コーナーで選んだのは良いけれど、作り始めようとすると自分の中でつくりたいものが定まっておらず、しばらくの間廃材と見つめ合う場面もあった。
- ・つくって満足する子よりも、つくった飛行機で戦いごっこをしたりパソコンでお母さんごっこをしたり、つくったものを見せ合ったり遊ぶことで、さらに友だちとのつながりを深めて楽しむ姿が多く見られていた。

## 【実践1, 2の考察】

- ・視聴中、映像に合わせてじっと見入ったり、わぁっと友達と声を上げて身体を揺らしたり、また息をのんで見入ったりと、子ども達が波のように揺れる様子から一体感が感じられた。
- ・視聴しながら友達の思いを聞き、それに言葉を重ねることで、さらにイメージが膨らんでいく様子が見られた。
- ・わくわくさんやゴロリになったつもりで一緒にやってみたり、逆にわくわくさんたちのように自分ができるのか自信が持てず、「難しそうだな」などと、自分に重ね合わせて考える事ができていた。
- ・ペットボトルを切って形を変えることに刺激を受け、イメージが膨らみ遊びが広がる様子が見られた。
- ・けん玉やパソコンなど作ることを楽しみ、それで終わりではなく作ったものを使って遊ぶ楽しさを友だち同士で存分に味わっている姿が見られていた。
- ・作りあげたもので遊びながら、より自分の思いに近づくものにするために、どうしたらよいかと気づき、考えて工夫していた。
- ・友だちの作って遊ぶ様子を見ながら、自分の遊びが楽しくなるようなイメージを更にふくらませて作りすすめていた。
- ・作る活動の中に様々な塗る、貼る、切る、仕組みを楽しむなど作業があり、子どもたちがしびんなりにの面白さを映像から見つけ、楽しんでいた。番組に様々なあそびの要素が含まれていることを改めて学んだ。

## 【Sくんの事例】

穏やかな印象で、色々な取り組みに対してマイペースなSくん。真面目な性格で、椅子の片付け、当番やトイレのスリッパの片付けを自ら進んでやってくれる。楽しそうに遊んでいるSくんの周りには自然と友だちが集まり、室内ではブロックを複雑に組み合わせて戦いごっこをしたり、戸外では砂場で様々なカップなどを使ってお店屋さんごっこなどを楽しんでいる。

言葉数も少なくゆっくりな話し方のSくんではあるが、思ったことは貫き通そうとして時に泣いて思いを押し通そうとするとところもある。救急車や消防車が大好きなSくん。

★廃材あそびで 6月29日(火)

「作りたい」という気持ちはあるもののどうしたらいいのかわからず悪戦苦闘。

廃材コーナーで友だちと菓子箱や筒などをカゴに入れながら、それぞれの作りたいものを想像して、どんなものを作るのか楽しそうに話している様子が見られた。

部屋に戻りたくさんの廃材を机に置くが、なかなか作ろうとしないSくん。

T:「Sくん何作るの?」(Sくん笑っている。他児が「消防車作るって!」と教えてくれる。)

T:「Sくん作ろうよ!!」(Sくん笑っていてしばらくして菓子箱の2つを合わせて見ている)

T:「Sくんいいね!! 2つくっつけてタイヤつけたらどう?」

(タイヤになりそうなものを本児が持ってきた物の中から探すが見当たらない。)

保育者が探しているうちにスプーンとトイレトペーパーの芯をつなげようとするがどうやってつければいいのか試行錯誤している。)

T:「Sくん、このセロテープでくっつきそうじゃない??」

Sくん: 悪戦苦闘しながら発酵乳の容器等長くつなげて、それを最初に重ねた2つの箱につけ、消防車のホースにしていた。

(保育者がヒントになりそうな言葉を掛けたが、自分のイメージとズレていたようで、何とか形にはしたものの、満足しきれない様子だった。)





★テレビ視聴 つくってあそぼ「ペットボトルで」 7月21日(水)

「でっかいさかな釣れた〜!!」

視聴中は目を輝かせ、次々と出てくるものに釘付けになり、心を奪われていた。時々表情が和らいだりするが、ほとんど微動だにすることなく吸い込まれていっていた。

視聴後、嬉しそうにまずはペットボトルを手にして、椅子に座りペットボトルそのものをくるくる回して、コマの様に遊んでみたり、あらかじめ切った形の異なったペットボトルを組み合わせて楽しむ姿が見られ、ペットボトルを持っている友だちもそばに来て、最初は様子を楽しそうに見つめていたが、次々に真似をしてコマのように回して誰がたくさん回せるかなどと盛り上がっていた。

満足すると次はペットボトルを組み合わせて遊んでいった。その隣で魚つりを楽しんでいるお友だちの様子も見ているSくん。「お〜釣れた〜!」など一緒に盛り上がっていく中で、使っていた魚釣りの棒を友だちが貸してくれたことがきっかけで、魚つりあそびへと発展していった。

ペットボトルを組み合わせていたSくんは、大きなペットボトルの上に、蓋のようにいくつも積み上げ、それを一度に釣り上げようとするが、いざ釣ろうとすると、一番上のものしか釣り上げられず「え?どうして!?!」と困った様子のSくん。しばらく考え「はっ!!」と気がついたようにテープを持ち出し、積み上げたペットボトルを1つ1つ丁寧に貼り合わせて、大きな大きな魚を作りあげていた。その魚を、釣り竿で嬉しそうに釣り上げて「でっかいさかな釣れた〜!」と満面の笑みを浮かべながら遊んでいた。

★廃材あそびで 7月28日(水)

「大好きな救急車をあれこれ考えて作ったよ!!」

S:「救急車作る。」とはりきってストロー数本をペットボトルにさしたり、箱を組み合わせている。

T:「Sくん、今日もかっこいい救急車、作ったら先生も見たいな。」

はにかんで微笑んでいるが、箱を組み合わせても、カップをくっつけてみてもイメージが膨らまない様子。しばらく考えていたが、途中ペットボトルの中にビーズを入れて振り回したり、音を鳴らしたりして、友だち数人で楽しんでいる。

その後、トイレットペーパーの芯にマジックで模様を描き、ハサミで4枚に切り、ペットボトルにビニールテープで貼り付け、飛行機を作っていた。給食の仕度の時間になっても、場所をかえて黙々と作り続け、「できた〜!!」と嬉しそうに叫んでいた。「救急車難しかったから飛行機作った。」とSくん。結局作った物は飛行機に変わったが、好きな物をあれこれ工夫して作ろうとする意欲の高まりが見られた。

## 【Aちゃんの事例】

様々な場面で力を発揮し、自分の思いも友だちや保育者に主張することができ、表情豊かで天真爛漫なAちゃん。しかし友だち同士の間で、思うようにいかなかったりすると、泣き続ける姿が見られる。何事にも前向きに取り組み、自分のことは自分でやり話をしっかり聞く姿が見られ、お手伝いなどを頼まれるときっちりこなすことのできるAちゃんだが、廃材あそびになると不安そうに保育者に訴える。

★廃材あそびで 6月19日(土)

「どうしたらうまく作れるの？」

Aちゃん：「せんせい、どうやってつくればいい？」

(廃材コーナーを目の前にしてうろうろ、どうしたらいいのかわからない

Aちゃん)

T：「何を作りたいの？」

Aちゃん：「…ロボット！」

T：「どれでロボットつくれるかね〜」「まず…体をどれにする？」

Aちゃん：「からだ・・・これ！？この箱にする。」 (他の友だちの様子を見て決めている)

T：「いいね〜いいね〜！強いロボットになりそうだね。」「頭はどれにする？」

Aちゃん：「頭は・・・これ？」 (保育者の顔を伺ってみる) (これでいいの？という表情で)

T：「いいだよ。Aちゃんの好きなやつで。」

Aちゃん：「じゃあ、これにする。」

(安心した様子で、小さな箱を大きな箱にくっつけて体と頭を想像している様子)

T：「手と足はどんな風がいいかな？」

Aちゃん：「手はね〜これとこれ。」「それに足がこれね。」

T：「いいね〜」「目とかつけちゃう？」

Aちゃん：「え〜〜目つけるの〜?! いいよ〜」「目はこのキャップにする。」

(カゴを抱えてお部屋に戻り作り始める)

(普段の活動でも失敗しないように取り組んでいきたいというAちゃん。廃材選びでも自分で作りたいものが決まってはいるものの、それをどう表現したらうまくいくのか不安に思っている様子であった。そばでひとつひとつ一緒に考えながら思いを引き出していけるようにしたものの、Aちゃんから意欲的に思いを表して廃材を選ぶことはできなかった。)



★テレビ視聴 つくってあそぼ 「ペットボトルで」 7月21日(水)

「花火を作るんだ!!」

視聴中、手をたいて「すごいね!すごいね!」と友だちと共感し合ったり、「これ作ろう!」「これがいいね~!」と作る意欲を刺激し合ったりしていた。

わくわくさんやゴロリの1つ1つの動きに反応し、その度に友だちと表情で伝えあったり、緊張感ある場面ではぐっと見入っている姿が見られた。

視聴後、移動して作り始めると、視聴中にも言っていたように「花火を作るんだ」と意気込んで、自らペットボトルを持ち出し、画用紙も好きな色を選んで黙々とハサミで切って、ペットボトルにペンで描いて飾ったり、切った画用紙をテープで貼って作りあげていた。

ゴムとわりばしは先生に「やって」と伝えに行き、やってもらおうと嬉しそうにゴムをぐるぐる回して、「わぁー!!」「見て~」と周りのお友だちに自分が作った花火を見てもらう為歩き回っていた。



★廃材あそびで 7月28日(水)

「ブルーハワイ味にしたい!!」

何を作りたいのか思いがはっきりしていて、廃材コーナーに一目散に向かい、「見て、これ。かき氷の材料~」と保育者に伝え、「ここに、これ入れてね~(コップに白い発砲スチロールを入れて)・・・」と作る前から説明してくれるAちゃんの姿が見られた。「ブルーハワイ味にしたい」というAちゃんにどうやって味を付けるのか聞くと、「ペンで塗ると出来る~♪」と青いペンで手を真っ青にしながらい発砲スチロールに色付けをし、迷いなく自ら進んで作り終え、友だちとかき氷屋さんごっこを展開していた。

(以前の廃材遊びでは、うまく作れないかもという不安から保育者のそばで関わりを求めていたAちゃん。視聴から遊びのヒントを得たAちゃんは、自分のイメージのふくらみから遊びをつくり出す意欲が高まったようで、保育者の関わりを求めずに、うまくつくることにこだわらずに楽しんでいる。)



## 【まとめと今後の課題】



- ・ 今回の研究を通して、子どもたちが、視聴活動による同一体験から友だちとイメージを重ね合わせ、より豊かに遊びをつくり出していく姿が見られた。
- ・ 友だちと一緒に見ることの大切さ、またそこに保育者も一緒に感動できる姿勢で望むことの重要性を感じた。
- ・ 視聴後の子どもの様子からは、保育者の想像する以上に映像から吸収し、それを遊びの中で試そうとする力が感じられ、子どもの思いを理解し、寄り添うことのできる保育者の感性の重要性を感じた。
- ・ 今回の視聴活動では、保育者が映像からいくつか真似をして、実際に子ども達に提示したが、今後は子ども達が映像などの刺激から、工夫して自分なりの遊びを創り出していくよう、少しずつ進めていく。
- ・ 今後も遊びのヒントとして、また同一体験ができる楽しい時間として、継続して視聴活動を取り入れ、より豊かにあそびをつくり出す力を育めるよう保育者として援助していきたい。

